

## 第 25 回 TQM 発表大会参加サークルとテーマ（平成 28 年 10 月 1 日）

第一会場 7 サークル				
No	部署	テーマ	テーマ選定理由	受賞
	サークル名			
1	北 7	<p>安心して下さい！ 取り戻せますよ！ ～婦人科患者さんに寄り 添う 退院指導の充実 N7～</p>	<p>北 7 階病棟は婦人科疾患を対象とする外科系病棟で、術後、クリニカルパスに沿って看護実践を行なっている。退院後の患者さんから、「病院での生活と自宅での生活のギャップ（包丁を使用すると傷にひびく、調理する時にも腰にひびく）が大きかった」等の声が聞かれる。退院時には、医師が作成した退院療養計画書に沿って退院指導を実施しているが、実際の内容を調査してみると、退院後の具体的な日常生活方法などの説明は 16 名中 5 名しか出来ていなかった。退院前日のみの指導ではなく、その人らしい生活が送れるように、退院へ向けた生活指導、相談を充実させたいと思い、このテーマを選定した。</p>	
	<p>♥Lady のミ・カ・ タ♥</p>			
2	北 6	<p>すこやか外来の充実 ～母児退院後の安心サポ ートを目指して～</p>	<p>当院では産後退院した母児の継続看護として、すこやか外来を設けている。当院におけるすこやか外来は、退院後の児の体重増加や家での授乳・育児状況を確認しその後の授乳・育児に繋げていくための支援を外来で週 2 回午後から行っている。しかし、外来枠でおさまりきれず病棟業務の傍ら病棟助産師が対応している為十分な育児支援に繋がっていないのが現状である。したがって産科・NICU 退</p>	優秀賞
	<p>Mam ママと赤ちゃん 守り隊</p>			

			<p>院後の全ての母児が安心して最初の1ヶ月を過ごすことができるシステムの充実が必要と考え、今回このテーマを選定した。</p>	
3	<p>東 5</p> <hr/> <p>E5-girls</p>	<p>follow you!</p> <p>～看護師から退院支援を～</p>	<p>入院前に ADL が自立していた患者さんでも、入院後は疾病や侵襲治療によって ADL が低下してしまうことがある。本来なら、回復期に移行するにつれ離床を促し、元の ADL に近づけていくべきであるが、なかなか離床が進まない現状にある。そのため家族より自宅へ連れて帰れるかという不安の声が聞かれ、リハビリ目的で転院となる患者さんがいる。そこで、患者さんを元の ADL に近づけ、安心して在宅復帰していただきたいと考えこのテーマを選定した。</p>	
4	<p>新生児センター</p> <hr/> <p>授乳の極み N</p> <p>～安心がありあまる～</p>	<p>ミルクより、普通～に、母乳がすつき～!</p>	<p>昨年の TQM の育児不安に関する調査で、授乳に関する不安が最も多いという結果がでました。電話訪問や退院パンフレット内容の改善など取り組みましたが、その後の調査でも授乳に関する不安が多いという結果は変わりませんでした。母乳育児を希望する母親は多いですが、入院中には直接授乳できる回数は限られており、十分な支援ができていないまま退院をむかえている現状もあります。そこで、今回は退院支援の中でも「授乳の不安」に着目し、現在行っている支援を再検討し入院中の母乳分泌維持や手技獲得のためのサポートを充実させることで、退院後の授乳育児不安の軽減につながるのではないかと考え、このテーマにしました。</p>	

5	<p>中央 4</p> <p>笑顔で帰ろう！</p>	<p>患者さんと家族に満足して退院してもらえ るよう、退院時の指導/処理について 看護師・医師、コメディカルと考える。</p>	<p>退院は患者さん・家族にとって嬉しいことであり、早く家に帰りたいたいと思っ ているはずである。しかし患者さんの家族が 迎えに来て待たせしてしまうことが多 い状態である。退院というイベントに対 して患者さん・家族・医療者みんなが笑 顔で見送りたい。この病棟に入院してよ かったと思いながら退院ができるように 円滑に退院が行えるシステムを構築した い。</p>	
6	<p>薬剤部</p> <p>業務の鉄人</p>	<p>指導にコミットする ～薬剤管理指導の充実～</p>	<p>薬剤部では、1日の業務時間のうち半日 を調剤業務、残りの半日を薬剤管理指導 業務に当てている。入院病棟に担当薬剤 師を配置し、入院患者さんに対する服薬 指導などを行い薬物治療の支援を行っ ているが、病棟に滞在できる時間は限ら れており、全ての入院患者さんに対し充 分に介入できていないのが現状である。 薬剤管理指導の充実のためには時間が限 られていること以外にも様々な問題点が 潜んでいると考え、それらを洗い出し指 導業務を改善させることで、より多くの 患者さんに充実した薬物治療の支援を したいと考え、今回このテーマを選定 した。</p>	<p><b>最優秀賞</b> お客様賞</p>
7	<p>東 8</p> <p>K.S.N</p>	<p>～Even after we got home 薬をしっかり飲もう～</p>	<p>退院が決定したら、病棟薬剤師も交え内 服指導を行なっている。指導のタイミン グは退院日間近であることが多く、入院 中に自己管理がきちんに行えているかの 評価までは行えていないのが現状であ る。また、退院後の自宅訪問で内服管理 が全くできていない患者さんもいること を知り看護師は退院後きちんと内服でき ているのか不安を抱えている。あるべき</p>	

			姿は、患者さんの家族が薬の必要性を認識し確実に自宅でも、自分なりの方法で確実に内服できることであり、服薬指導の充実を図りたいと考え、このテーマを選定した。	
8	南 1A 安心して下さい！ かえる隊！	まごころ退院支援 ～患者さんの家族の安心 を目指した退院支援シス テムの構築～	近年、国の方針として在宅医療の充実が推進される中、地域医療支援病院として急性期医療を提供している飯塚病院がいかに地域とつながりをもって、病院としての役割を果たしていくかが大きな課題である。急性期治療を終えた患者さんが、安心して入院前の環境に戻るために、早期からどのような具体的支援が必要なのかを考えなくてはならない。しかし、現状では、スタッフの意識の相違や知識やスキル不足などから、十分とは言い難い退院支援になっている。統一された退院支援のしくみができることで、すべてのスタッフが同様の問題意識をもって、必要な時期に必要な支援を講じることが可能となり、このことは、最終的には患者さんやご家族の安心につながると考え、このテーマで活動することとした。	審査員特別賞

第二会場 7 サークル				
No	部署	テーマ	テーマ選定理由	受賞
	サークル名			
1	ハイケア 3 ケモ ZAP ～指導にコミットする～	短い時間で価値ある指導を！	ハイケア 3 階では短期入院で化学療法を行っている。入院期間が短い中で、抗がん剤を投与しながら、入院・	審査員特別賞

			<p>化学療法オリエンテーション、支持薬説明、退院指導、外来見学などを実施しており、看護師は時間切迫を感じながら指導・業務を行っている。そこで、今回業務内容を整理し、必要な指導や患者さんのそばに寄り添える時間を確保することで、患者さんの安心・安全な治療に繋げることができると考え、このテーマに選定した。</p>	
2	臨床工学部 SMILE	<p>患者さんを笑顔に！ ～待ち時間減少への道～</p>	<p>患者さんは週3回、5時間の透析治療を受けています。5時間の透析治療が終了した後、回路内の血液を体内に戻し、針を2本抜き止血作業を行い、血圧測定、体重測定し帰宅されます。この過程で患者さんに待ち時間が発生しています。待ち時間の減少を目的とし業務改善と効率化に取り組み、患者さんに最高のSMILE（笑顔）で帰宅して頂けるようにこのテーマを選定しました。</p>	<p>優秀賞 お客様賞</p>
3	ICU L∞K！！	<p>ベッドサイドから離れません！ ～あなたを看てるから～</p>	<p>ICUでは重症患者さんが多く、異常の早期発見や状態変化に直ちに対応するため、常に看護師がベッドサイドで観察することが求められる。しかし、現在ICUでは、物品管理における標準化や物品の可視化がされていない部分があり、必要物品を準備するためにベッドサイドを離れたり、探したりすることがある。EK活動で一部分の整理や物品の見直しも行っているが、歯止めがうまくできていないことや手付かずになっていることも多い。そこで今回、ベッドサイドから離れずに</p>	<p>最優秀賞</p>

			<p>処置・ケアができるように、「物品管理」・「整理」・「整頓」に着目し、ICUにおける治療環境を整え、ベッドサイドケアを充実させていきたいと思い、このテーマを選定した。</p>	
4	<p>南 2A</p> <hr/> <p>褥瘡サル♡ ～褥瘡できたらやっべっぞ！！コロコロチラチラ 2Aズ～</p>	<p>褥瘡発生「0」へ ～赤いおしりをなくそう～</p>	<p>南 2A は腎疾患や膠原病内科等の混合病棟である。アルブミン値も低く、栄養状態の悪い患者さんが多い。昨年度当病棟で褥瘡発生が 6 件と相次いだ。褥瘡発生の要因としては栄養状態の低下や湿潤、ADL の低下、それに加え、効果的なポジショニングによる除圧が行えていなかったこと、病棟透析室との情報共有が行えていなかったことが要因である。今回、再度スタッフの褥瘡に対する意識を高めていく必要があると感じた。また、二度と褥瘡発生がないように看護ケアの質を高めることで、患者さんの QOL を向上させ、早期退院へつながっていく。また、褥瘡処置などが無くなれば、処置に費やしていた時間を患者さんにとって本当に必要なケアの時間にすることができ、看護師のやりがいも充実すると思いこのテーマにした。</p>	
5	<p>栄養管理 委員会</p> <hr/> <p>ABC あっぷ UP</p>	<p>栄養管理が必要な患者さん全てに、NST 介入しよう！</p>	<p>2014 年 NST 介入と非介入の背景を調査した際に、SGA 判定以外の背景には差がない結果が出て、栄養管理を行うスタッフの個々の基準で、NST 介入・非介入を決定している可能性が考えられた。実際、最近では NST 介入患者さんが減少し、NST ラウンド中にも介入が必要な患者さんが埋も</p>	

			<p>れているのではないかとという疑問がある。全ての患者さんにおいて栄養状態が治癒成績に影響することは明白である。また「食べること」は人間にとって当たり前の行為であるが、その当たり前の行為が入院中に当たり前に患者さんに提供できていないのではないかと適切に NST が介入し、適切な栄養管理ができていないのか？栄養管理の現状を改めて把握し、患者さんが元気になっていけるように栄養管理の精度をあげたい。という強い思いからテーマを選定しました。</p>	
6	E4 救急 チーム♡MM-SOYS	わたしたち、そばにいますよ	<p>現在、セル化に伴いベットサイドで看護を提供しているが、実際には患者さんの側にいるにもかかわらずナースコールがなるなど、患者さんに対して十分な対応ができていないと考える。今回、ベットサイドにいることを最大限活かせるように、最適な看護を提供することを目指す。</p>	
7	救命救急 センター ノーベル救外賞	ER ウォークイン側の 物品整理・整頓による 作業の効率化	<p>ER の役割として患者さんの変化への早期発見早期対応が求められる。そのような考えの下、H27 年度 ER ウォークイン側での取り組みとして患者さん・看護師双方が見える配置造りの活動を行ってきた。看護師の立ち位置やベッドの配置変更を行い環境改善はできたが、処置準備の為に患者さんの側を離れる時間がある。処置に必要な物品を適正に配置することでムダな動線が減り、患者さんの側にいる時間が少しでも長くなると考えた。また、</p>	

			<p>ERでの物品管理はER-Aideが担っている。ER-Aideは物品補充する際に何をどのくらいどこに補充したらよいか視覚化されておらず、ムダな時間と動線が問題となっている。今回NsとER-Aideが連携し活動することで、お互いのムリ・ムダ・ムラを減らし、しいては患者さんに最適な医療が提供でき「まごころ医療」の提供につながると考えこのテーマにした。</p>
8	<p>南3B わたしもHOTし隊 ☆(・▽・)/</p>	<p>HOT導入から管理までのマニュアル作成～ばらばらだった指導内容を統一しよう！～</p>	<p>南3B病棟は呼吸器内科と血液内科混合病棟で、呼吸器内科では、COPDや間質性肺炎の患者さんが入院してることが多い。在宅酸素療法(home oxygen therapy 以下、HOTとする)中の患者さんが入院になる症例や、HOT導入を目的とした入院がある。しかし、HOT管理の病棟での取り決めやマニュアルがなく、担当した看護師の知識で指導し、統一されたものがない現状である。HOTを導入し退院した患者さんが外来で携帯酸素ボンベに酸素を充填せず受診した事例があった。このような患者さんをなくし、確実な酸素投与ができるように関わっていく必要があると考えた。そのためには、看護師のHOT管理に必要な知識や手技獲得を統一し、看護師が自信を持って在宅に繋げ、患者さんにも安心して療養を送ってもらいたいと思い、このテーマにした。</p>



## 歯止め優秀事例発表

No	部署	サークル名	テーマ	発表回
1	医療福祉室	医療フクシムシ	かえりたあいんだから♪ ～治療が終わったらすぐに施設に戻りたい～	第 24 回
2	臨床工学部・資材課	SMILE feat. MATERIAL	みんなを笑顔に －医療機器の最適管理を目指して－	第 24 回
3	北 5 階	Let it go ～ありのまままで ～	プレイルーム活用計画 ～病気だって遊びたいもん！！～	第 24 回